

趣味の庭造りを観光資源に

shobara satoyama open garden



しよばら花会議には個人会員の29の事業者が「花と緑のまちづくりを応援する」賛助会員として加入し、活動をサポートしています。

個人から事業者へ 広がる花活動の輪

以降、公開する庭、期間を増やしながら回を重ね、これまで毎年春と秋計6回開催。昨年春は30庭が26日間公開し、過去最高の延べ3万5055人が訪れています。



自宅の庭を公開 さとやまオープンガーデン

個人の庭を一般公開する「庄原さとやまオープンガーデン」。「庭造りは趣味でしているだけで、本来人に見せるようなものではない。こんなもので本当に人が来るのか...」。そうした不安を抱えつつ平成23年春、11庭が4日間の公開をスタートさせました。これにすぐ反応したのが、各マスメディアでした。この取り組みは珍しいこともあり、多くのテレビや新聞で取り上げられました。市民をはじめ、市外の庄原市出身者などからも多くの反響があり、市外を中心に延べ2400人が来訪。この成功によって花会議メンバーは手応えをつかみ、当初の不安は大きな自信と喜びへと変わっていきましました。

社会福祉法人 相扶会 副園長 尾野義頭さん



老人ホームは文字通り「お年寄りの家」です。家で手入れされているお庭を登録させてもらったという気持ちです。120人の大家族のお庭と想像していただければと思います。市内からは少し遠いですが、ぜひお立ち寄りください。



光臺庭
約30m²の面積にさまざまな花木が咲いている。上から見ると、ある文字の形になっているので、ぜひ現地でご覧ください。



かんぼの郷庄原の庭
今秋のオープンガーデンに向けて準備中。

特集1

私たち、しよばら花会議です

— 花と緑のまちづくり仕掛け人 —

自然あふれる庄原市。道端から山すそを見渡すと、花の彩りに目を奪われます。花に囲まれるとみんな笑顔になります。庭先から花と緑のまちづくり。この小さな取り組みが、庄原市全体の取り組みへと広がっています。今月は、その仕掛け人である「しよばら花会議」の活動をご紹介します。



まちなか広場で庭園づくりするしよばら花会議の皆さん

息吹く花の活動 まちなかを花でいっぱい

全国的に広がっている「花いっぱい運動」。庄原市の中心地に位置する本町支部女性会も、花でまちを飾り景観の良いまちづくりを進めようと約20年前から「花いっぱい運動」に取り組んできました。4年前からは、常緑やまぼうしの鉢植えを街路樹の無い道路沿いに設置する「ミニ街路樹事業」にも取り組んでいます。景観の向上だけでなく、安心安全の地域づくりや青少年の健全育成などにもつながればとの願いも込め、長年続けてきました。7年前、同会の会長に就任した佐藤浩子さんは、同会の活動の幅を広げ、花によるまちづくりを女性会という小

それは小さな
まちづくり活動から
始まった——

「花好き」が集まった しよばら花会議誕生

その思いは、友人のお宅に訪れたときにより大きくなりました。「何気なく覗いた庭がとにかく素晴らしかったんです。これを独り占めにするのはずるい。そう思いました」。

その当時、ある雑誌で自宅の庭を公開するというオープンガーデンの記事が印象に残っていた佐藤さんは「庄原はこうした素材の宝庫。オープンガーデンができれば庄原市の魅力がもっと発信できるはず」と夢を膨らませました。〇〇さんの庭がいらいらという話を聞くと、すぐに足を運び自分の思いを伝えました。断られることもありましたが、「こんなことで、庄原のためになるなら」と賛同する人が少しずつ増えていきました。

そして、平成22年8月9日、花好きが集まった組織「しよばら花会議」が設立されました。

さとやまオープンガーデンのパンフレットを店内に置いて案内したり、オープンガーデンに訪れた人に無償でトイレを提供したりと、「一緒になってオープンガーデンを盛り上げていきます」。

その賛助会員の中から今春、オープンガーデンに参加したいと初めて手が上がりました。約120人の高齢者が暮らす老人ホームなどを運営する社会福祉法人相扶会（尾引町）が、施設内にある光臺（こうだい）庭を公開します。

「全市的に取り組みされている事業のお手伝いできればという思いがありました」と話すのは副園長の尾野義頭さん。もともと入居者の方のために約8年前に造られたこの庭は、土や花をいじることでリハビリにもなり、生きがいのある生活になればという思いがあったといいます。その庭を公開することで、より皆さんの生活にも張り

でき、楽しみも増えるのではないかと考え、今回申し込みました。入居者の本岡ユキエさんは「天気の良い日に20〜30分くらい花を見て歩きますが、とてもきれいにできてあって、本当に良いですよ」と笑顔を咲かせています。また、かんぼの郷庄原（新庄町）も、今秋開催予定のオープンガーデン参加に向けて準備を進めています。代表取締役社長の長谷部泰士さんは「しよばら花会議さんが行っているさとやまオープンガーデンは観光面での貢献が大きく、企業や団体も一緒になって、庄原を花のまちとして売っていくことがとても大切だと思っています。花会議さんががんばっておられるので、それに連動する形で、当施設もロビーからも望める庭を整備しました。お客さまからも評判がよく、秋のオープンガーデンに向けてしっかり準備していきたいと思っております」と意気込みを語っています。

楽しさ・作る喜びを伝える

shobara satoyama learning ground



学校・地域に増える花好き 出張寄せ植え講習会

身近な玄関先から「花の緑のまじりくり」を目標に活動を進めるしようばら花会議では、気軽に飾ってもらえるハンギングバスケットやコンテナガーデンの作り方を知ってもらおうと、講師を派遣しガーデニングの楽しさを伝える活動にも取り組んでいます。

しようばら花会議副理事長で、国営備北丘陵公園で植栽を担当している斎木義伸さんが講師となり、市内の小中学校や各自治振興区などに出向いて講習を行っています。

昨年は延べ11自治振興区と12の小中学校で、500人あまりが受講。分かりやすく丁寧な教え方で、受講者からも好評です。

「花づくりによる人づくり」を掲げ



西城自治振興区の花講座「花くらぶ」の様子



高野小学校での寄せ植え講習の様子

取り組んでいる西城自治振興区は昨年、しようばら花会議の講師派遣を受け、5回連続の花講座を実施しました。

事務局長の田村琴巳さんは「講習会は好評でしたので、今年は各地域へ出向いて花講座を開催したいと思っています。その際には、しようばら花会議さんの力をぜひお借りしたいですね」と期待を寄せています。

また、講習を受けた庄原小学校や東城小学校の児童からは「すごく分かりやすく上手に寄せ植えができた」「寄せ植えは初めてだったけど楽しかった」「家で大切に育てます」といった手紙が寄せられるなど、花を身近に感じる子どもたちが着実に増えてきています。

子どもたちが誇れる 花のあふれるまちに



しようばら花会議副理事長
斎木 義伸 さん

私たちの活動の基本は、今まであったものを掘り起こして、皆さんに見ていただくということなんです。まずは皆さんが集まっていたいて、花づくりをしてみようこと。出張講習会に行く回数が増えれば、その分だけまちに花が増える。という思いを持ち続け活動を続けています。

子どもたちからの手紙は本当にうれしく、ありがたいですね。こうした活動を通じて、子どもたちにも庄原のいいところがこんなにあるよ、というのを伝えていくことも私たちの活動の目的でもあります。将来子どもたちに庄原市に住み続けてもらうために、庄原を好きになってもう少しのきっかけになればと思っています。

まちなかを元気にする仕掛け

shobara satoyama machinaka foot pass



来訪者を回遊させる まちなかフットパス

今春新たな取り組みとして、庄原のまちなかを散策しながら、ゆつくりのんびり庭を巡る「まちなかフットパス」が実施されます。これは、まちなかにある6つの公開庭を巡る一つのルートを示して、そこを回遊してもらおうというもので、まちなかにできるだけの時間、来訪者に滞在してもらおうというねらいがあります。

「庄原の中心部が（人が少なく）寂しいなど常々思っていました。年がら年中でなくても、年に1度くらいは元気になる時があってもいい。オーブンガーデンはそのきっかけになっていくと思うんです。だけどまだまだ何か



作製したハンギングを玄関先に飾り来訪者を迎えます。

できることがあると思うんですよね。その一つがこの取り組みです」と佐藤さん。

期間中は来訪者に気持ちよく歩いてもらいたいと、ルート沿いの住民の方々に協力してもらい、ハンギング（壁に掛けた花のコンテナ）の飾り付けも行いました。「庄原赤十字病院の周辺は歩道もきれいに整備されたので、こうしたルートをもっと増やしていきたいですね」と思いは尽きません。



ハンギング作りの様子。しようばら花会議会員とフットパスの沿線住民が集まってハンギング作り。皆さん終始笑顔で楽しみながら、思い思いの作品を作っていました。



天野カツミ さん
(西本町)

花会議の活動に刺激を受けています

自宅の目の前にまちなか広場ができたおかげで、ここを訪ねてくる方が増えました。この場所に住み続けるなら、楽しく住みたいと思い、花会議の活動に参加しました。いつも楽しく活動されている花会議の皆さんから大きな刺激を受けています。





庄原さとやまオープンガーデン 5/10sat - 6/8sun sat & sun ONLY 10:00 ~ 16:00

しょうばら花会議が主催する「庄原さとやまオープンガーデン2014春」が、5月10日から6月8日までの土・日曜日、10日間のスケジュールで一般公開されます。

公開庭園は、昨年春の30庭から34庭(プレオープン含む)に増えています。それぞれの庭によって公開日が異なりますので、ご注意ください。

●サポーター募集中

しょうばら花会議の活動を支える「サポーター」を募集中です。入会者にはサポーターカードが発行されます。このカードを提示することで、賛助会員が提供する特典などが受けられます。入会には500円が必要です。



オープンガーデン、サポーター制度についての詳細は、しょうばら花会議ホームページ (<http://shobaraflower.blogspot.jp/>) をご覧になるか、庄原市観光協会 (☎ 0824-75-0173) へお問い合わせください。



ガイドマップを手に 公開庭を巡ろう

オープンガーデンを巡る際には公式ガイドマップをご利用ください。ガイドマップは、市内11カ所のお店(インフォメーション)で配布しています。

庄原市ふるさと大使 石原和幸 さん

庄原市に思いを寄せて——



いしはら・かずゆき

1958年長崎市生まれ。22歳で生け花の本流「池坊」に入門して以来、花と緑に魅了され路上販売から店舗、そして庭造りを展開。苔を使った庭で独自の世界観が国際ガーデニングショーの最高峰である「英国チェルシーフラワーショー」で高く評価され、2006年から異部門で史上初の3年連続金メダルを受賞。2012年には「さとやま」、2013年には「床の間」をテーマに出展し、2年連続で最高の名誉である金メダルとベストガーデンを受賞。国内外から高い評価を受けている。2012年から庄原市ふるさと大使。

庄原は世界一の里山の風景

庄原でオープンガーデンが始まり、たくさんの方にきていただくようになりました。もともととたくさんの方にきていただきたいです。そして庄原にたくさんの方が戻ってきて、イギリスのコツツウオールみたいな一大観光地になり、世界中から観光客が絶えない庄原になってほしいと思います。庄原は世界に誇れる里山の地域だと思っています。またお邪魔させてください。

僕が初めて庄原に訪問させていただいたときに思ったのが、まず懐かしさでした。僕の両親は専業酪農の農家で、そのときの風景が忘れられなくて、そのときの元気があった両親の思い出や地域の方の人間関係そのものが僕の庭のデザインになっています。その頃の風景にそっくりなのが庄原です。古い農家集落の風景や棚田、里山など懐かしくてたまりません。里山イコール庄原だと思います。僕は、日本全体が便利になりすぎて何か大切なものを忘れていくように思います。ここ庄原の風景や皆さんの優しさ、その大切なものを教え

結びつき・つながりあい

connect, ties shobara satoyama



花と花でつながる人 新たな連携が生んだ副産物

毎月1回、国営備北丘陵公園で景観ボランティアを行っている、しょうばら花会議。花でつながった縁で、公園内にある花壇の手入れ、植栽を行いながらガーデニング講習を行っています。公園側はボランティアで花の手入れがしてもらえ、しょうばら花会議側は、無料でガーデニング講習が受けられるという、双方にとってメリットがあります。

こうした連携は、世界的ガーデナーの石原和幸さんがプロデュースする庭造りや昨年開催された庄原さとやまガーデンフェスティバルの開催などにも生かされています。そして、連携先は、花のまちづくりを進めている他の市町・団体へと広がりを見せています。



国営備北丘陵公園での植栽ボランティアの様子



単に観光客を増やしたいわけじゃないんです ここに住むみんなが元気になればいいんです

しょうばら花会議 理事長
佐藤 浩子 さん

とにかく、まちが元気になること。それしか頭にありませんでした。

点と点をつないだ花によるネットワークが「しょうばら花会議」です。ただ組織化をするだけではダメだと思い、オープンガーデンの開催をひとつの目標に掲げて取り組んだことが、ここまでやって来られたポイントだったように思います。

オープンガーデンをして本当に良かったと思うのが、会員の方が心から楽しんでくれていることです。まちの人たちが面白そうに、楽しげにしていれば、自然に人がやって来るんです。そうでないと続きませんし、自分を犠牲にしてまでできませんからね。楽しんだ延長に、少しでも人が来てくれれば、という思いなんです。

寄せ植え講習会を実施した児童の皆さん

から「寄せ植えして花が好きになった」「僕が20歳になったらしょうばら花会議に入って庄原を花いっぱいになりたい」という手紙をいただいたときに、うれしい気持ちと同時に、花の持つ“力”というものを実感しました。

庄原の観光を牽引している国営備北丘陵公園と市民との距離が遠い気がしていましたので、私たちが連携することでそのパイプ役に少しはなれたのかなと感じています。

これからの取り組みは、まだつながっていない皆さんと一つでも連携し、つながり合うことが必要だと思っています。

皆さんも、私たちと一緒に楽しみながら花と緑のまちづくりを進めていきましょう。

